

株主の皆様へ

第14期 株主通信

2010年12月1日～2011年11月30日



ホームページのご案内

当社のHPでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っております。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひアクセスしてください。



URL:<http://www.ikco.co.jp/>


株主の皆様の声をお聞かせください


下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 3377

いいかぶ **検索** Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、**いいかぶ** と4文字入れて検索してください。

 **空メールによりURL自動返信** kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 **携帯電話からもアクセスできます** QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com



株式会社アイケイコーポレーション

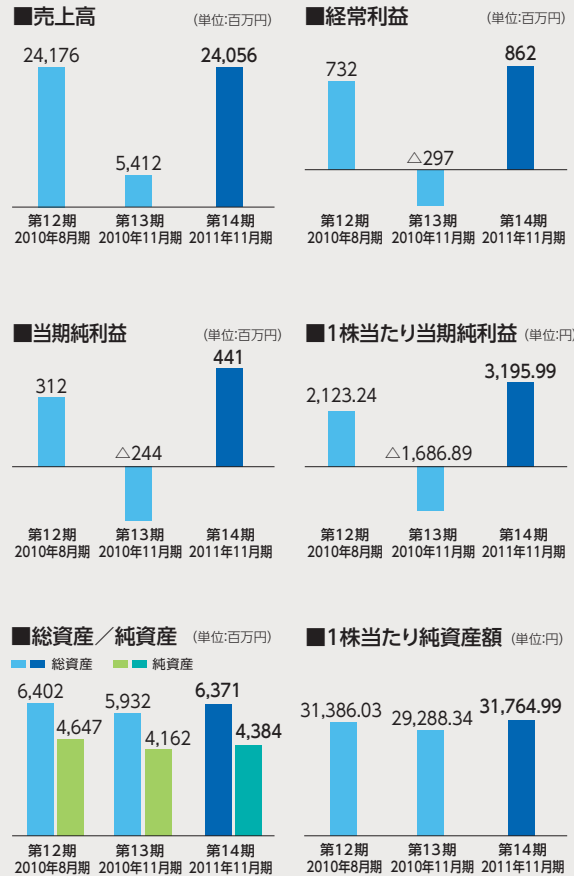
〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエア18階
TEL03-6803-8811 FAX03-3409-5050



株式会社アイケイコーポレーション



連結財務ハイライト



※第13期は、2010年9月1日から11月30日までの3ヶ月決算となります。



代表取締役社長
加藤 義博

代表取締役会長
石川 秋彦

第14期(2011年11月期)の概況

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
2011年11月期決算の概況、および次期の見通しについてご報告申し上げます。

当連結会計年度における我が国経済は、東日本大震災、欧州財政不安による世界経済の不安定要素の発生や長引く円高やデフレによる影響等、懸念すべき問題も多く景気の先行きは不透明な状況が続きました。

当社コアビジネスである中古オートバイ買取事業は、広告効果の課題抽出・改善検証や出張買取成約率の向上施策等を進めたものの、前年同期と比べお申し込み件数が減少したため販売台数が減少いたしました。一方で、主たる販売先(出品先)であるオークション市場において、

2011年3月、4月は相場が一時的に不安定に推移したものの、5月以降は季節トレンドに沿って上昇傾向がみられたこと等により、平均売上単価(一台当たりの売上高)ならびに平均粗利額(一台当たりの粗利額)は前年と同水準となりました。なお、新規の出店はありません。

以上の結果、直営店舗数は100店舗、セグメント間取引消去前の売上高は21,513百万円、経常利益は617百万円となりました。

オートバイ小売事業は、「バイク王ダイレクトSHOP」を中心に、積極的な販売活動、小売販売店のブランディング強化を実施するとともに、将来的な店舗展開を視野に入れた店舗パッケージの検証を目的に、2店舗を新規出店するとともに4店舗を閉鎖しております。

以上の結果、直営店舗数は9店舗(小売販売店:8店舗、パーツ販売店:1店舗)、セグメント間取引消去前の売上高は3,964百万円、経常利益は269百万円となりました。

オートバイ駐車場事業は、引き続き採算性を重視した事業地開発を実施することで、事業地開発と損益のバランスのとれた事業展開に努めてまいりました。

以上の結果、セグメント間取引消去前の売上高は644百万円、経常損失は23百万円となりました。

この結果、連結業績は、売上高24,056百万円(前年同期比0.8%増)、営業利益802百万円(同18.4%増)、経常利益862百万円(同22.4%増)、当期純利益441百万円(同79.8%増)となりました。

※前年同期比は決算期の変更を踏まえ、2009年12月1日から2010年11月30日までを比較対象としています。

次期の見通しについて

当社グループは、中古オートバイ買取事業を当社のコアビジネスとして位置づけ、事業基盤の強化を図るとともに、オートバイ小売事業においては将来に向けた店舗パッケージの検証に注力してまいります。

中古オートバイ買取事業は、業績改善施策を継続することによって前年同期の経営効率を維持するとともに、利益の確保を図ってまいります。

オートバイ小売事業は、引き続き標準店舗パッケージに沿った出店を実施し、将来に向けた店舗パッケージの検証を図ってまいります。

オートバイ駐車場事業は、オートバイユーザーの利用環境整備の観点から重要な事業であると認識しており、引き続き採算性を重視した事業地開発を実施するとともに、収益力の向上を図ってまいります。

配当方針

当社グループは、安定的な配当を行うことを念頭に置きつつ、業績等を勘案した上で配当金額を決定しております。

第14期の1株当たり配当金は、年間1,200円(第2四半期末600円、期末600円)とし、また、次期(第15期)の1株当たり配当金についても年間1,200円(第2四半期末600円、期末600円)を予定しております。

「オートバイライフの総合プランナー」実現に向けて

買取販売



全国の各店舗からお客様のご自宅へ、ご指定の時間に専門の査定員が訪問する無料出張買取。独自開発のITシステム「i-kiss」に支えられた全国统一の査定基準による明瞭かつ適正な買取価格の提示。煩雑な手続きの無料代行。当社は、常にオートバイユーザーの立場で考え、その利便性を徹底的に追求してきました。お客様本位のサービスをお届けし、ユーザーに信頼され選ばれるブランドであるべく、スタッフ一丸となって日々の業務に取り組んでいます。



※出典元:
株式会社矢野経済研究所調べ
(2011年5月現在)



バイク王の強み

ポイント1 24時間365日受付

インフォメーションセンターにおける24時間365日無休の申し込み受付。「今すぐ」というご要望にもクイックレスポンスでお応えします。



ポイント2 無料出張買取

お客様がご希望の日時に、ご自宅へ査定員が訪問します。携帯端末で査定し、成約の場合はその場で買い取りを行います。



ポイント3 手続き代行

お譲りいただいたオートバイに関する名義変更、廃車手続きなど、売却時に発生する煩雑な手続きを無料で代行します。



ポイント4 全国展開

「全国どこへでも無料出張買取」を可能にしたスケールメリットを活かし、お客様への迅速な対応を行うほか、看板効果による認知度拡大にも努めています。



小売販売



高い認知度を誇る「バイク王」のブランド力を源泉に、全てのオートバイユーザーをターゲットとした小売販売店。豊富な取扱車種、市場を加味したリーズナブルな価格、「バイク王」と連携した独自のサービスを展開し、ユーザーと「ダイレクト」に結ばれるオートバイショップを目指します。



オートバイ 駐車場



時代のニーズに合わせた、都市型展開のオートバイ駐車場。時間貸し、月極の両面からユーザーをサポート。交通環境の整備促進、違法駐車への低減にも寄与。狭小地、変形地などの有効活用も可能な公共性の高い事業です。



パーツ販売



全国展開する「バイク王」から高品質な中古バイクパーツを厳選し、WEBで販売。現行モデルから他では売っていない旧モデルまで豊富な商品を取り揃え、オートバイユーザーの多様なニーズにお応えしております。

海外取引



各国のニーズに応じた販路を、新たに開拓するための海外取引ブランド。海外マーケットでの、個人・法人をターゲットとした新たなビジネスを模索しています。



オートバイ小売販売店「バイク王ダイレクトSHOP」の新規店舗がOPEN

バイク王ダイレクトSHOP 大阪171号店が移転、「バイク王ダイレクトSHOP 171号伊丹店」としてリニューアルオープン!!

2011年11月1日、兵庫県伊丹市バイクセブン店内にオープン。同店は売場面積132.7坪のフロアに、150台程度の車輛を展示。オートバイに関連するパーツやアクセサリーなどの商品を豊富に取り揃えるバイクセブンとの双方の強みを活かし、ライダーのオートバイライフを強力にサポートします。



北関東エリア初進出!「バイク王ダイレクトSHOP 50号小山店」をオープン!

2011年12月2日、栃木県小山市に北関東エリア初進出となる店舗をオープン。同店は、売場面積147.3坪の店内に、200台程度の車輛を取り揃えており、バイク王ダイレクトSHOPの中でも最大級の店舗在庫となります。



「バイクで俳句・川柳グランプリ2011」を開催～応募総数は過去最多の3,374句～

「8月19日(バイクの日)」にちなんだイベントとして、日本の文化である俳句・川柳の募集企画を2007年より行っています。今回は震災の影響もあり、節電がテーマの作品、人との絆を詠んだ作品が多く集まりました。また、還暦を迎えたライダーや女性ライダーの作品も目立ち、オートバイライフの楽しさをさまざまな視点から詠んだ作品が寄せられました。

今年の大賞句は、一本木さんの作品「還暦に 夢を叶えた バイク旅」に決定しました。



「東日本大震災」における当社支援に関するお知らせ

当社は東日本大震災の被災者・被災地に少しでもお役立ていただくため、義援金8,070千円の寄付および中古原動機付自転車の無償貸与による支援等を行いました。

二輪車オークションの更なる活性化を目指して

● 業務・資本提携について

当社は、(株)ユー・エス・エス(以下「USS」)ならびに(株)ジャパンバイクオークション(以下「JBA」)との業務・資本提携により、バイクオークション事業について基本合意を締結いたしました(2011年3月)。

USSは車輛ストックヤードやオークション設備を当社、JBAに賃貸し、JBAは最新の設備を使ったバイクオークションを実現します。また、当社はJBAに対し、バイクの出品支援を行います。

本提携により、当社は、物流拠点の集約による商品提供の迅速化および物流コストの削減を図ってまいります。

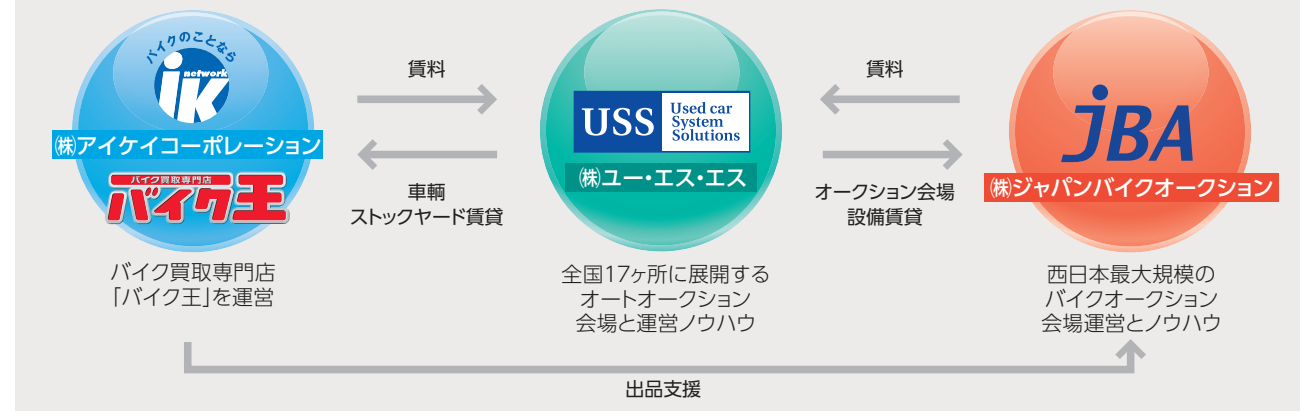
● 「USS神戸会場」にてJBAが運営するバイクオークションがスタート

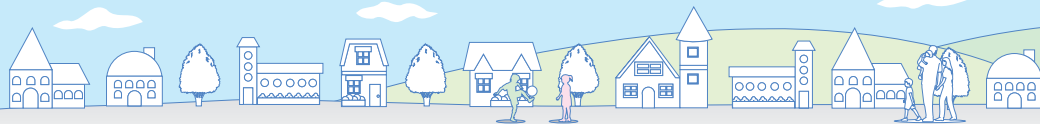
2011年11月1日に、「USS神戸会場」にてJBAが運営するバイクオークションがスタートしました。同時に当社は、「USS神戸会場」内に神戸物流センターを開設いたしました。

当日開催されたオークションには、450名以上の来場者と出品台数1,379台のバイクが集まり、盛大な幕開けとなりました。

なお、「USS横浜会場」におけるバイクオークションも2012年5月にスタートする予定です。

■ 業務・資本提携が生む新たなビジネスモデル





商号変更のお知らせ(変更予定日:2012年9月1日)

当社は設立以来、オートバイユーザーの利便性を第一にサービスの拡充に努めるとともに、市場の活性化、リユース・リサイクルを通じた社会貢献を目指し、オートバイ買取専門店「バイク王」を中心に、事業展開を図ってまいりました。

現在、「バイク王」は買取実績No.1*に成長し、オートバイユーザーのみならず日本中の多くの方に認知いただいております。また、小売販売店として「バイク王ダイレクトSHOP」を展開する等、バイク王ブランドのもとに事業活動を結集しております。

この度の社名変更は、これまで培ってきたブランド資産を最大限に活用し、当社認知度を一層高めることによる企業価値・ブランド価値の向上を目的として行うものです。

また、新社名には、『バイク王』のもとに目的を同じくする『仲間(カンパニー)』が集い、共に夢を実現していく組織を築くこと、そしてバイク王ブランドを中心に、当社ビジョンである「オートバイライフの総合プランナー」へと進化を遂げるという二つの決意が込められております。

当社は、新社名のもと、全社一丸となってお客様へのサービスを一層拡充し、企業価値・ブランド価値の更なる向上を目指してまいります。

※2010年 二輪中古車買取台数 株式会社矢野経済研究所調べ(2011年5月現在)

新商号 株式会社バイク王&カンパニー
(英文:BIKE O & COMPANY Ltd.)



連結子会社「株式会社パーク王」の吸収合併について

【合併の目的】

当社グループは、「オートバイライフの総合プランナー」をビジョンに掲げ、より多くの方々にオートバイの魅力伝えるとともに、オートバイ市場の活性化への寄与、リユース・リサイクルを通じた社会への貢献に基づいた事業拡大を目指しております。この方針に基づいて、当社グループは、2006年3月1日に子会社「株

式会社パーク王」を設立し、オートバイ駐車場事業を営んでまいりました。オートバイユーザーの利用環境整備の観点から引き続き重要な事業であると認識しておりますが、この度、信用力の強化、収益性の向上等を推し進める目的で、当該子会社を当社に吸収合併いたします。(合併期日(効力発生日):2012年3月1日)

バイク王 バイクライフ研究所

「オートバイライフの総合プランナー」をビジョンに掲げる当社では、2011年8月にオートバイライフの楽しさやオートバイ市場の動向などを広く社会に発信することを目的に、情報発信組織「バイク王 バイクライフ研究所」を発足しました。

今回、「バイク王 バイクライフ研究所」の澤所長に発足の目的や活動内容などを伺いました。

Q 研究所の発足の経緯についてお聞かせください。

A 当社は、「オートバイライフの総合プランナー」をビジョンに掲げており、オートバイ買取専門店「バイク王」は、買取実績No.1の地位を確立しております。

しかしながら、昨今のオートバイ業界は新車販売の低迷、若者のオートバイ離れなど、元気のないニュースばかりが目立ちます。

この要因には、オートバイ業界のデータ不足、オートバイへのネガティブなイメージの先行による不透明感等が少なからず影響していると考えています。

当社は、業界のリーディングカンパニーとして、より多くの方々にオートバイ業界の状況・オートバイの魅力等をお伝えすることで、オートバイ業界の活性化に貢献したいという思いから、本研究所を発足いたしました。

Q 活動内容についてお聞かせください。

A 本研究所は、オートバイ業界活性化のため中立的な立場で活動し、不足するオートバイ市場の統計データの収集・発信、オートバイライフの楽しさ・安全面を訴求する活動の実施等を行い、オートバイユーザーや各種メディアに対し情報発信を行ってまいります。

Q 具体的な内容については如何ですか。

A 2011年11月期においては、8月17日に本研究所の発足を記念し、ラゾーナ川崎プラザ(神奈川県川崎市)にて、「Fun to Ride! Meeting 2011」を開催しました。

ゲストには、芸能界きってのオートバイ好きであり、バイク王のイメージキャラクターであるテリー伊藤さんと、AKB48の宮澤佐江さんに登場いただきました。また、発足を記念して創設しました「ベストFun ライダー賞」の第1回受賞者であるDA PUMPのISSAさんにも参加いただきました。このほか、大学生とのトークセッションでは、オートバイに乗らない大学生にも参加いただき、オートバイの魅力に触れていただきました。

また、11月からは「オートバイライフの楽しさ・安全面を訴求する活動」として、警視庁二輪車交通安全対策係との相互協力の下、オートバイ事故防止啓もう活動をスタートしております。

Q 今後の活動についてお聞かせください。

A 現段階では、まだまだ具体的な内容はお伝えできませんが、Facebookを活用したファン交流、または各種イベント、ニュースレターの発信などを積極的に行っていく予定です。詳細は、随時コーポレートサイト等に掲載してまいります。今後の活動に是非ともご期待ください。

第15期(2012年11月期)の取り組み紹介

【基本的な考え方】:グループ全体の最適化

「買取主体の事業モデル」から「買取&小売の事業モデル」への移行を図る

- 「小売事業戦略委員会」を設置。事業構造の再構築を図る
- 販管費の抑制(前年同期水準を維持)と共通費配賦の見直し(買取事業▶小売事業へ)

グループ会社の再編成

- 連結子会社「株式会社パーク王」を当社に吸収合併

買 取

引き続き効率化を推進し、利益確保

- 広告宣伝の効率化 & 業績改善施策の継続
- 店舗網 & 物流網の再構築(100店舗 ▶ 95店舗、2拠点 ▶ 横浜物流センター(仮称))

小 売

引き続き出店&検証を実施

- 新規出店 & 標準店舗パッケージの検証 → 将来に向けた準備を固める(8店舗 ▶ 11店舗)
- 教育研修 & 人員強化の充実

駐 車 場

収益性の向上&採算性を重視した事業地開発

- 子会社「パーク王」の吸収合併にともなう信用力の強化、収益性の向上を図る
- 事業地開発は採算性を重視

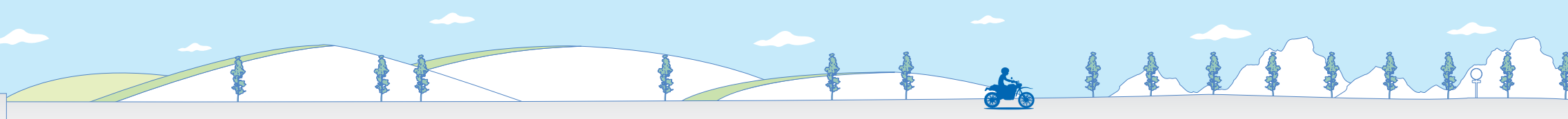
買取&小売の事業モデル 概念図

「買取主体の事業モデル」から「買取&小売の事業モデル」への移行を図る



【ご参考】第15期(2012年11月期)業績予想

		第15期(2012年11月期)		第14期(2011年11月期)
連結業績	売上高	24,050百万円	0.0%減	24,056百万円
	営業利益	885百万円	10.3%増	802百万円
	経常利益	934百万円	8.3%増	862百万円
	当期純利益	487百万円	10.3%増	441百万円
買取販売	売上高	21,474百万円	0.2%減	21,513百万円
	経常利益	812百万円	31.6%増	617百万円
小売販売	売上高	4,307百万円	8.7%増	3,964百万円
	経常利益	127百万円	52.7%減	269百万円
駐車場(パーク王)	売上高	694百万円	7.8%増	644百万円
	経常利益	△ 4百万円	-%	△ 23百万円



連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	第13期 (2010年11月30日現在)	第14期 (2011年11月30日現在)
●資産の部		
流動資産	4,303,838	4,587,689
固定資産	1,628,790	1,784,041
有形固定資産	831,082	784,456
無形固定資産	152,615	149,590
投資その他の資産	645,093	849,994
1 資産合計	5,932,629	6,371,731
●負債の部		
流動負債	1,411,095	1,664,815
固定負債	359,207	322,796
2 負債合計	1,770,302	1,987,611
●純資産の部		
株主資本	4,160,890	4,378,995
資本金	585,650	585,650
資本剰余金	605,272	605,272
利益剰余金	3,267,559	3,583,882
自己株式	△ 297,591	△ 395,810
その他の包括利益累計額	1,363	-
為替換算調整勘定	1,363	-
新株予約権	73	5,124
3 純資産合計	4,162,326	4,384,119
負債純資産合計	5,932,629	6,371,731

財政のポイント

●ポイント①: 資産について

流動資産は、前連結会計年度末に比べ283,850千円増加し、4,587,689千円となりました。これは主に、商品64,217千円、自己株式の買付けを目的とした金銭の信託317,110千円、繰延税金資産132,837千円等の減少があったものの、現金及び預金750,084千円、売掛金82,270千円等の増加があったためであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ155,250千円増加し、1,784,041千円となりました。これは主に、有形固定資産が46,625千円減少したものの、投資有価証券265,837千円等の増加があったためであります。

●ポイント②: 負債について

流動負債は、前連結会計年度末に比べ253,720千円増加し、1,664,815千円となりました。これは主に、未払金の減少95,346千円があったものの、未払法人税等166,135千円、未払消費税等145,459千円等の増加があったためであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ36,411千円減少し、322,796千円となりました。これは主に、リース債務10,846千円、長期未払金11,143千円等の減少があったためであります。

●ポイント③: 純資産について

純資産は、前連結会計年度末に比べて221,792千円増加し、4,384,119千円となりました。これは主に、自己株式の取得98,218千円、株主配当による利益剰余金の減少125,347千円があったものの、当期純利益441,670千円があったためであります。

※第13期は、2010年9月1日から2010年11月30日までの3ヶ月決算となります。

連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	第13期 (2010年9月1日から 2010年11月30日まで)	第14期 (2010年12月1日から 2011年11月30日まで)
売上高	5,412,047	24,056,012
売上原価	2,616,434	11,218,098
売上総利益	2,795,613	12,837,913
販売費及び一般管理費	3,094,876	12,035,355
営業利益又は損失(△)	△ 299,263	802,558
営業外収益	18,239	110,974
営業外費用	16,948	50,567
経常利益又は損失(△)	△ 297,972	862,964
特別利益	69,918	40,272
特別損失	77,209	148,365
税金等調整前当期純利益 又は純損失(△)	△ 305,263	754,871
法人税等	△ 60,848	313,201
少数株主損益調整前当期純利益 又は純損失(△)	△ 244,414	441,670
当期純利益又は純損失(△)	△ 244,414	441,670

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	第13期 (2010年9月1日から 2010年11月30日まで)	第14期 (2010年12月1日から 2011年11月30日まで)
4 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 569,079	1,269,218
5 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 33,974	△ 549,520
6 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 496,994	30,386
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,100,049	750,084
現金及び現金同等物の期首残高	3,275,038	2,174,989
現金及び現金同等物の期末残高	2,174,989	2,925,073

キャッシュ・フローのポイント

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ750,084千円増加し、2,925,073千円となりました。

●ポイント④: 営業活動によるキャッシュ・フローについて

営業活動の結果得られた資金は1,269,218千円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益754,871千円、減価償却費280,356千円、固定資産臨時償却費48,193千円、持分法による投資損益36,167千円、減損損失61,216千円の計上およびたな卸資産の減少73,167千円等による資金の増加があったものの、売上債権の増加82,270千円、未払金の減少104,642千円による資金の減少等があったためであります。

●ポイント⑤: 投資活動によるキャッシュ・フローについて

投資活動の結果使用した資金は549,520千円となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出268,800千円、有形固定資産の取得による支出156,014千円、無形固定資産の取得による支出87,523千円および建設協力金の支払による支出42,544千円等があったためであります。

●ポイント⑥: 財務活動によるキャッシュ・フローについて

財務活動の結果得られた資金は30,386千円となりました。これは、リース債務の返済による支出56,858千円、自己株式の取得による支出98,218千円および配当金の支払額131,647千円があったものの、自己株式の買付けを目的とした金銭の信託の減少による資金の増加317,110千円があったためであります。

会社概要 (2011年11月30日現在)

商号 株式会社アイケイコーポレーション
 本社所在地 〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエア18階
 事業内容 オートバイの新しい流通システムを提案する「バイク買取専門店」の経営
 設立 1998年9月(創業1994年9月)
 資本金 585,650千円
 連結従業員数 911名/平均年齢30.7歳(個別)

役員 (2012年2月28日現在)

代表取締役会長 石川 秋彦 常勤監査役 増淵 洋吉
 代表取締役社長 加藤 義博 監査役 諏訪 浩
 取締役副社長 大谷 真樹 監査役 山口 達郎
 取締役 山縣 俊
 取締役 産形 昭夫

※1 取締役のうち、産形 昭夫氏は社外取締役であります。
 ※2 監査役のうち、諏訪 浩、山口 達郎の各氏は社外監査役であります。

株主メモ

事業年度 12月1日から翌年11月30日まで
 定時株主総会 事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
 定時株主総会の基準日 11月30日
 剰余金の配当基準日 11月30日
 期末配当 5月31日
 中間配当 5月31日
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 0120-232-711(フリーダイヤル)
 特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社
 同連絡先 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 0120-288-324(フリーダイヤル)
 公告方法 当社ウェブサイト(<http://www.ikco.co.jp/>)
 もしくは日本経済新聞

株式の状況 (2011年11月30日現在)

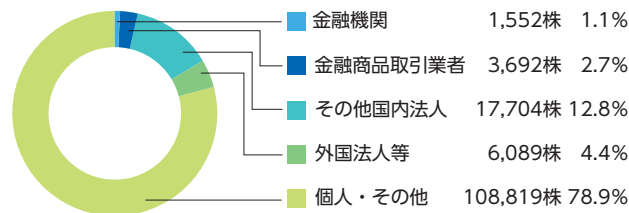
発行可能株式総数 普通株式 600,000株
 発行済株式の総数 普通株式 152,856株
 (自己株式15,000株を含む)
 株主数 2,454名

大株主

株主名	持株数	持株比率
石川秋彦	39,229株	28.5%
加藤義博	31,590	22.9
有限会社ケイ	9,000	6.5
株式会社ユー・エス・エス	7,733	5.6
石川ゆかり	4,289	3.1
アイケイコーポレーション従業員持株会	3,628	2.6
加藤信子	2,940	2.1
松山太河	2,659	1.9
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	1,630	1.2
メロンバンク エヌエー トリーティー クライアント オムニパス	1,500	1.1

※1 当社は、自己株式を15,000株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 ※2 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
 ※3 持株比率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。

所有者別株式分布状況



※1 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
 ※2 持株比率は、小数点以下第1位未満を四捨五入して表示しております。

ネットワーク (2012年2月28日現在)

- ◆ 本社
〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエア18階
- ◆ インフォメーションセンター
- ◆ 第二インフォメーションセンター
- ◆ 横浜物流センター
- ◆ 柏物流センター
- ◆ さいたま物流センター
- ◆ 筑波物流センター
- ◆ 名古屋物流センター
- ◆ 神戸物流センター
- ◆ 福岡物流センター

近畿エリア

バイク王 15店舗
 バイク王 SHUJI-SHOP 1店舗
 物流センター 1拠点

中国エリア

バイク王 5店舗

九州エリア

バイク王 7店舗
 バイク王 SHUJI-SHOP 1店舗
 物流センター 1拠点

沖縄エリア

バイク王 1店舗

東海エリア

バイク王 10店舗
 バイク王 SHUJI-SHOP 2店舗
 物流センター 1拠点

北海道エリア

バイク王 4店舗

東北エリア

バイク王 4店舗
 バイク王 SHUJI-SHOP 1店舗
 インフォメーションセンター1拠点

信越・北陸エリア

バイク王 3店舗

四国エリア

バイク王 3店舗

関東エリア

バイク王 45店舗
 バイク王 SHUJI-SHOP 4店舗
 インフォメーションセンター1拠点
 物流センター 4拠点